

就学前児童の調査結果と分析（主なもの）

1. 家族の状況

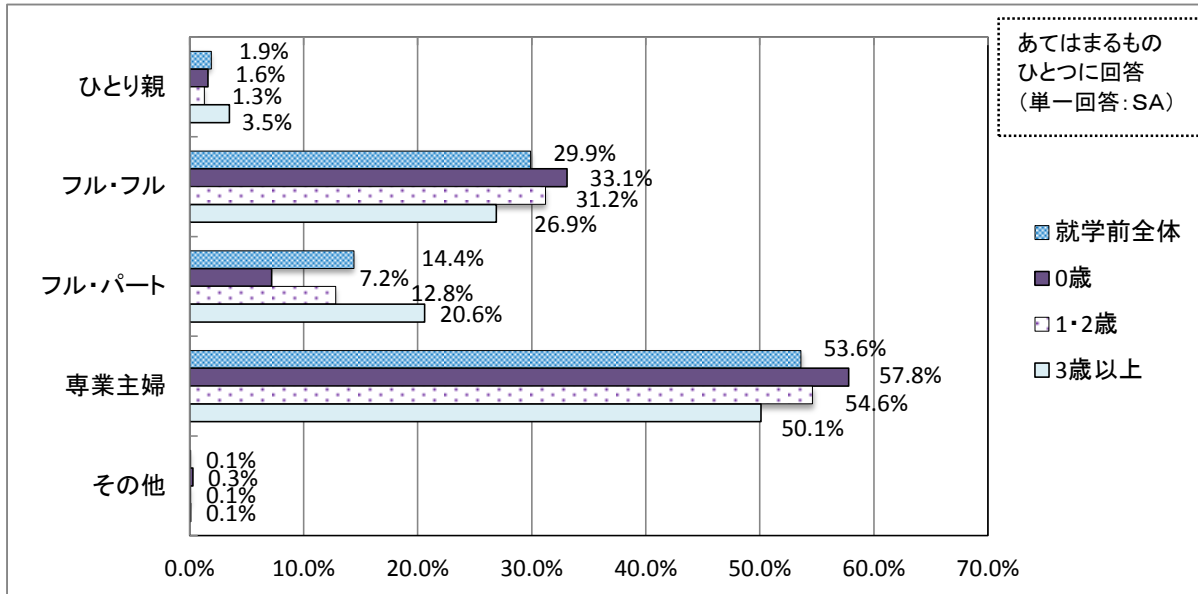
(1) 家族類型

【就学前児童のいる子育て世帯の約5割は「専業主婦」の世帯】

○現在の家族類型で最も割合が高いのは、「専業主婦」の世帯であり、5割以上を占めている。

○共働きの世帯では、父母ともにフルタイムの就労（以下、「フル・フル」）の世帯の割合が、父母の就労がフルタイムとパートタイム（以下、「フル・パート」）の世帯の割合を上回っている。

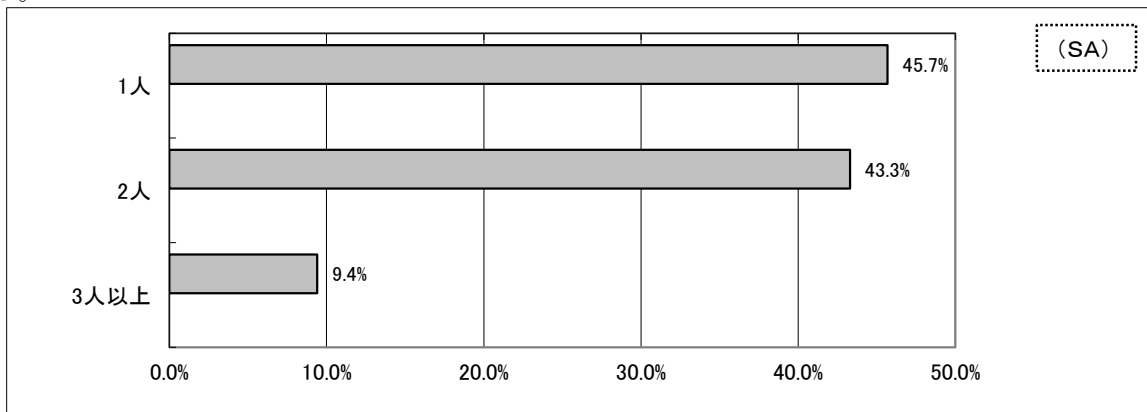
○年齢別の傾向では、0歳の子どもがいる世帯で「専業主婦」の割合が最も高く、子どもの年齢が上がるとともに「専業主婦」の割合が減少する傾向にあり、3歳以上の子どものいる世帯では、「フル・パート」の割合が高い。



(2) 子どもの人数

【一世帯あたりの子どもの数は、2人以下が約9割】

○子どもの人数は、「1人」が最も多く、「3人以上」子どものいる世帯は約1割となっている。

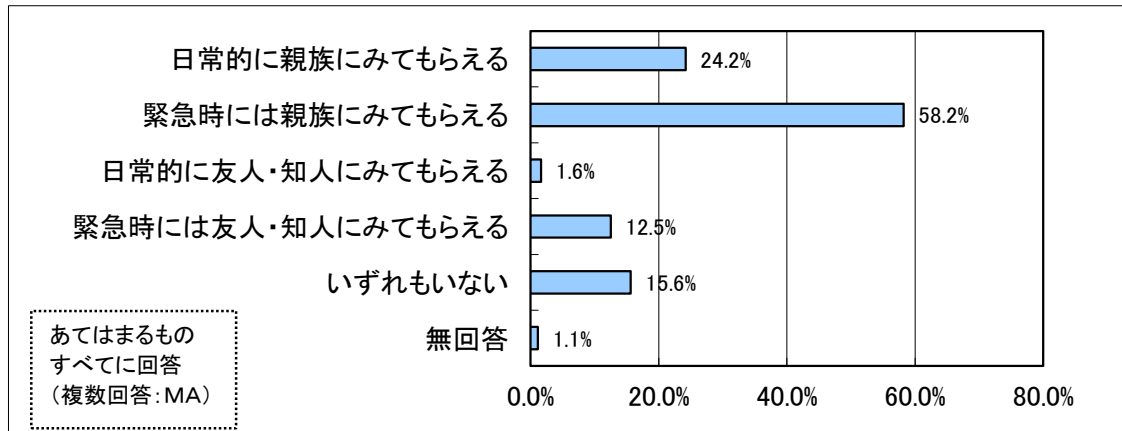


(3) 日頃、子どもをみてもらえる親族・知人の有無

【日常的・緊急時いずれも子どもをみてもらえる親族・友人等がない世帯が、約16%ある。】

○約7割の世帯が、緊急時に子どもを預かってもらえる親族または友人等がいる。

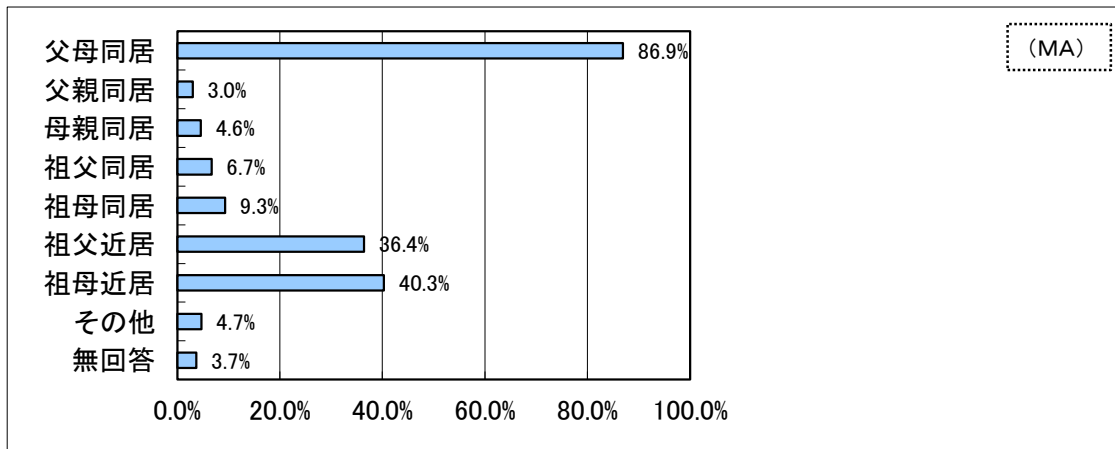
○日常的にまた緊急時に親族に子どもを預かってもらえる世帯は8割強。



<関連設問>同居・近居（概ね30分以内に行き来できる範囲）の状況

【約1割弱の世帯が祖父母と同居，約4割の世帯が祖父母と近居】

○祖父母ともに、同居の割合は高くはないが、近居は約4割となっている。



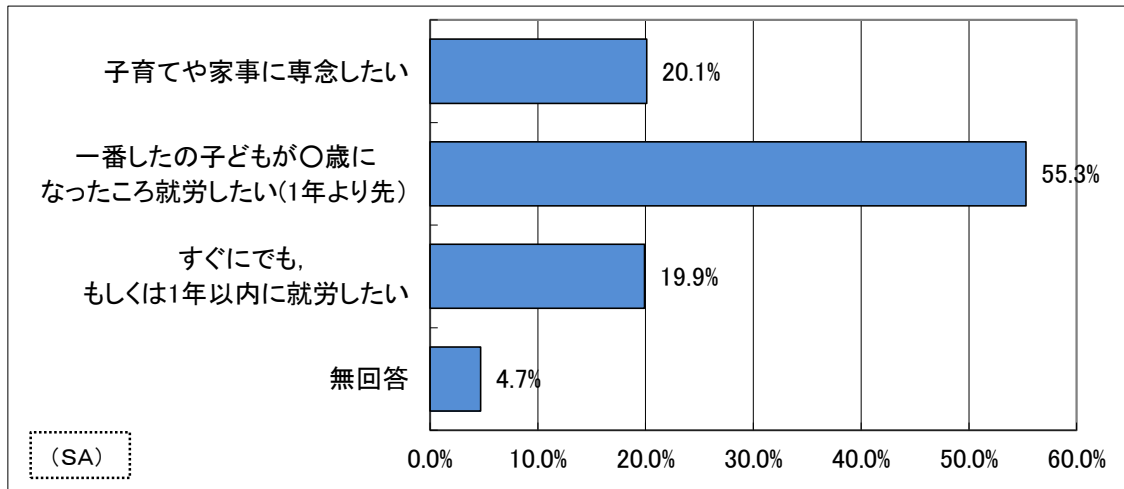
2. 母親の就労

(1) 現在就労していない母親の就労希望

【現在就労していない母親の今後の就労希望は、7割強】

○1年以内に就労を希望する母親が、約2割いる。

○1年より先に就労を希望する母親の割合は5割強で、子どもが5歳になったころ就労を希望している。



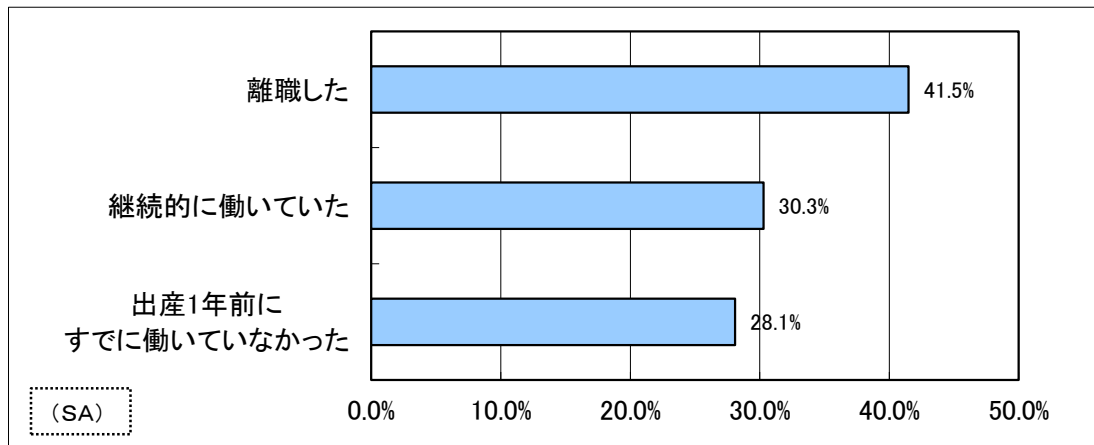
(2) 一番小さい子どもが何歳になったときに就労を希望するか

平均：5.2歳

<関連設問①> 母親の出産前後の離職の状況

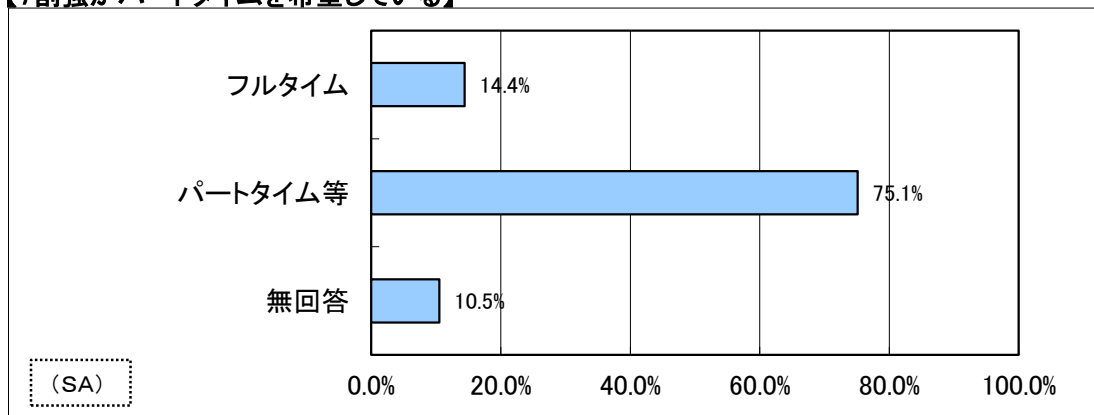
【約4割の母親が出産を機に離職している】

○継続的に就労している母親は約3割となっている



<関連設問②> 希望する就労形態（母親）

【7割強がパートタイムを希望している】



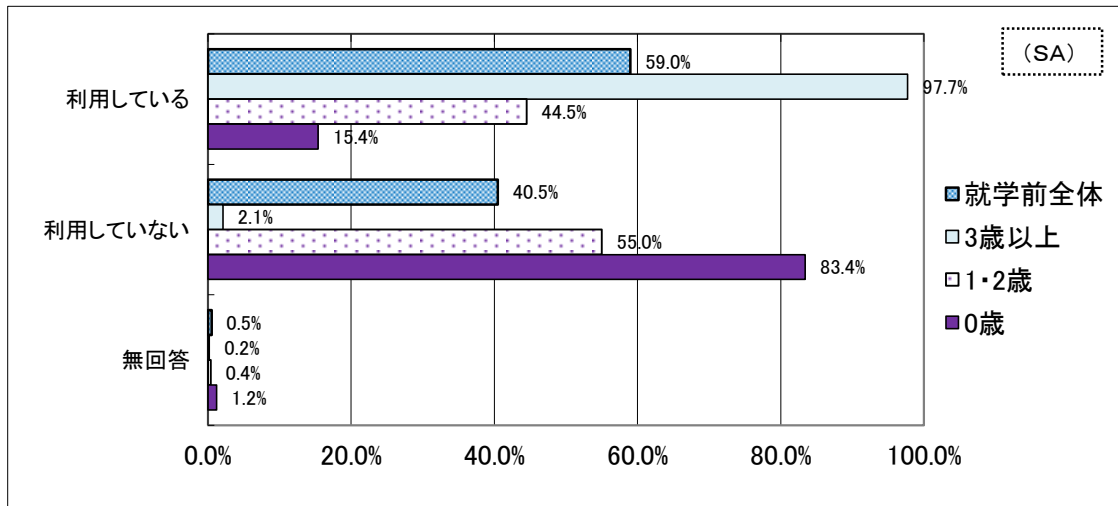
1週あたりの就労希望日数	1週あたりの就労希望時間
平均 4.0日	平均 5.1時間

3. 定期的な教育・保育事業の利用について

(1) 現在利用している教育・保育事業の有無

【就学前児童のいる世帯の約6割が教育・保育事業を利用している】

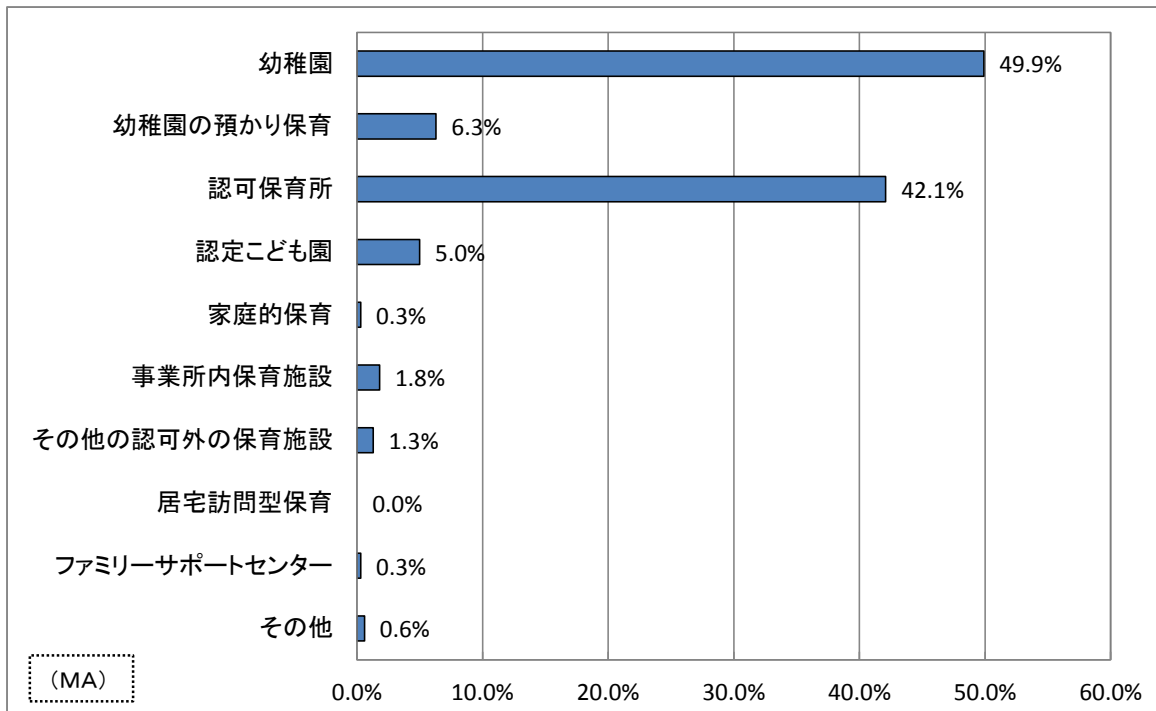
○年齢別では、3歳以上の子どものいる世帯の約98%が教育・保育事業を利用している。
 ○1・2歳の子どものいる世帯では約45%、0歳の子どものいる世帯では約15%が教育・保育事業を利用している。



(2) 現在利用している教育・保育事業

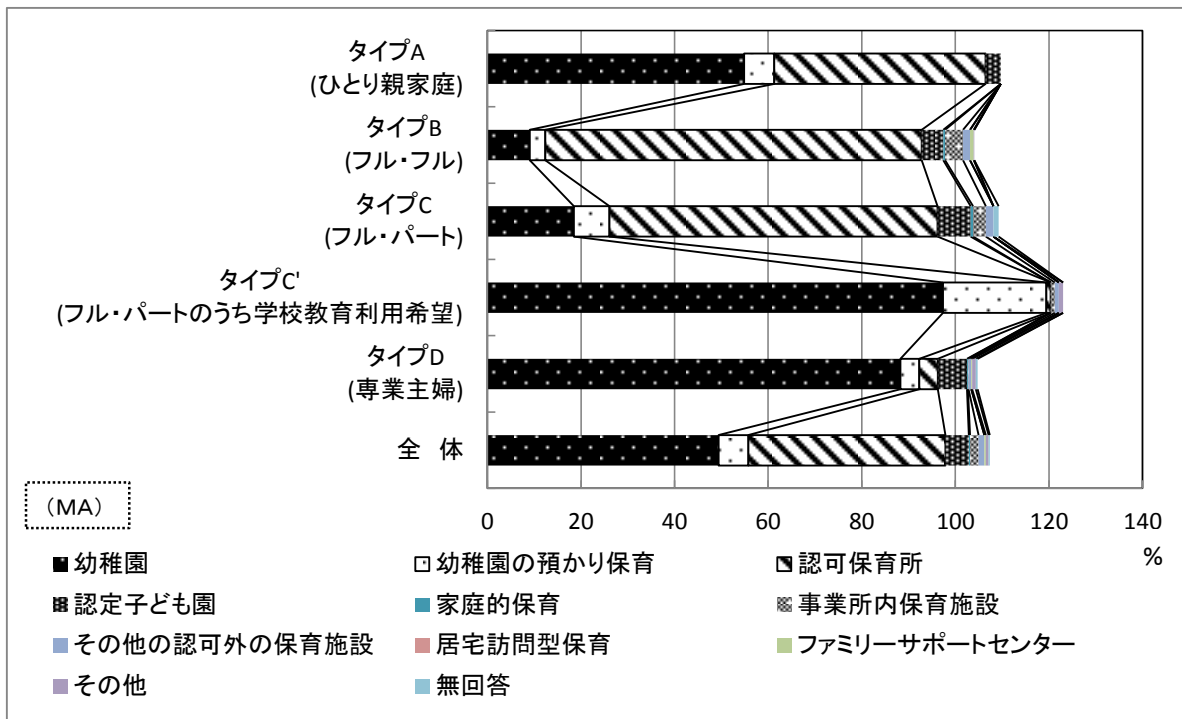
【幼稚園の利用は約5割、認可保育所の利用は約4割】

○幼稚園や認可保育所以外では、幼稚園の預かり保育と認定こども園の利用意向が高い。
 [全体]



○家族類型別の傾向では、共働きの世帯（タイプBおよびC）では認可保育所の利用割合が高い。
 ○共働きの世帯であり、現在幼稚園を利用している世帯（タイプC'）では、幼稚園の預かり保育を利用している割合が高い。

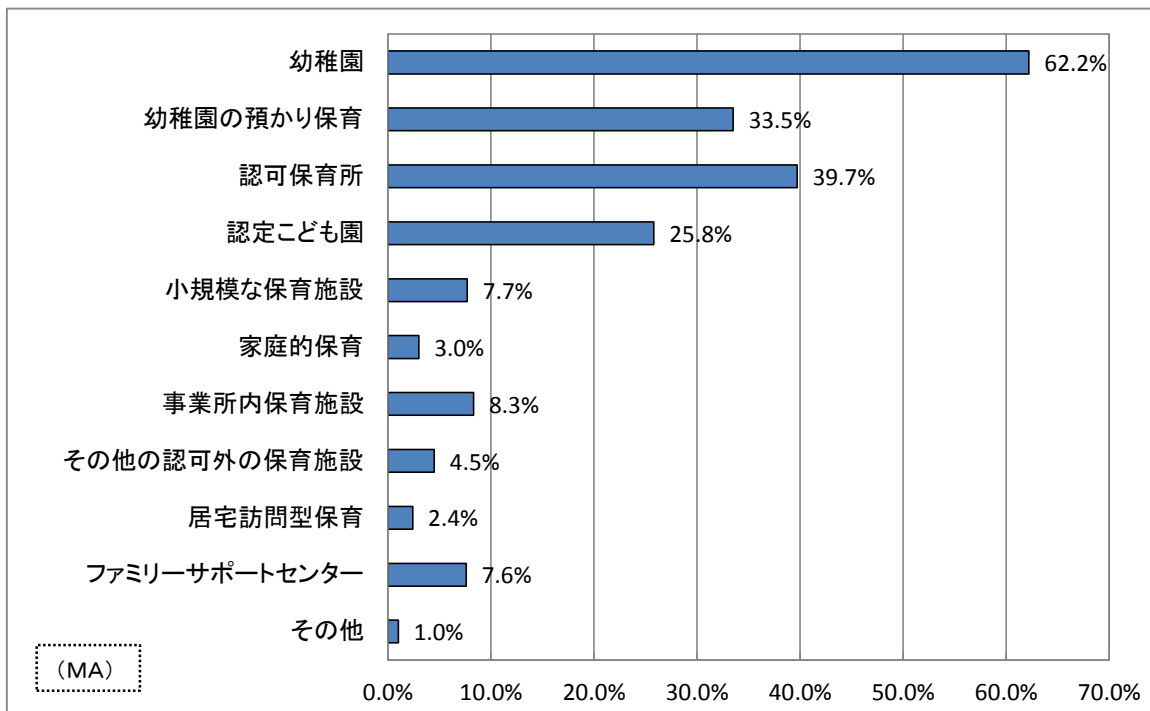
〔家族類型別〕



(3) 今後利用したい教育・保育事業

【認定子ども園の利用意向は約26%, 現在の利用状況(5%)と比較して高い利用意向】

○幼稚園の利用意向が6割強と最も高く、次に認可保育所が約4割となっている。
 ○保育サービスでは、幼稚園の預かり保育や事業所内保育・小規模な保育施設など多様なサービスの利用意向がある。

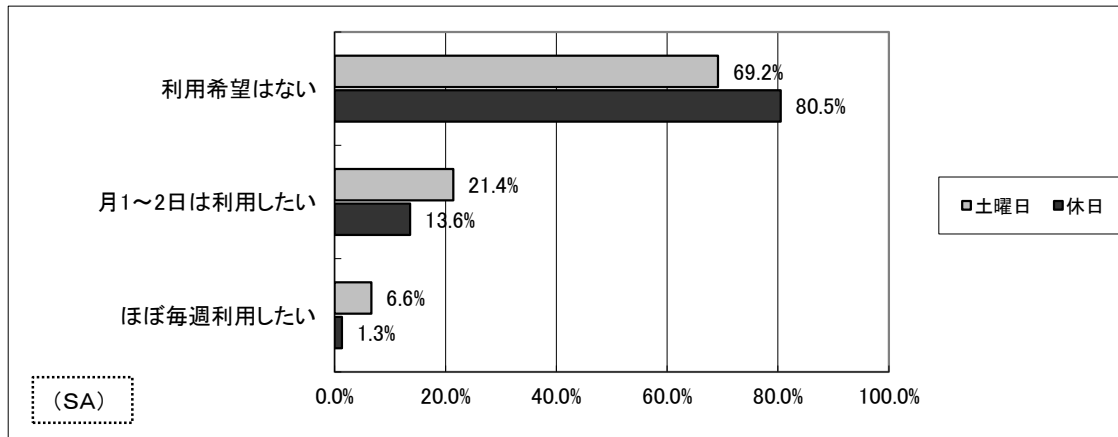


3. 土曜・休日や長期休暇の定期的な教育・保育事業の利用希望について

(1) 土曜日・休日（日曜日，祝日）の利用希望

【土曜日に月1～2回は幼稚園や保育所等を利用したい人は約2割，休日は1割強】

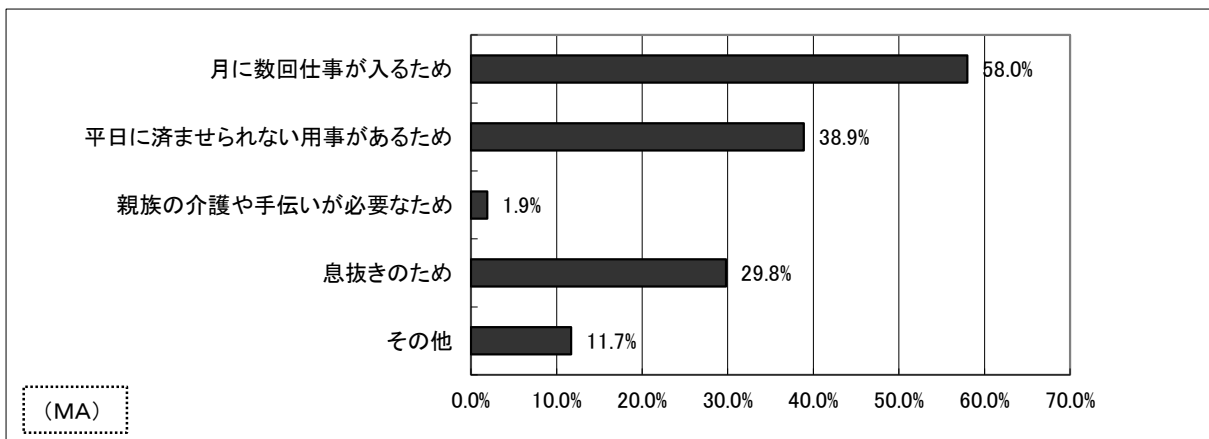
○土曜日，日曜日・祝日を毎週利用したい人の割合は低いですが，月に1～2日利用したい人の割合は，土曜日21.4%，日曜日・祝日13.6%となっている。



(2) 土曜日・休日（日曜日，祝日）に月1～2回利用したい人の理由

【就労による利用希望が約6割】

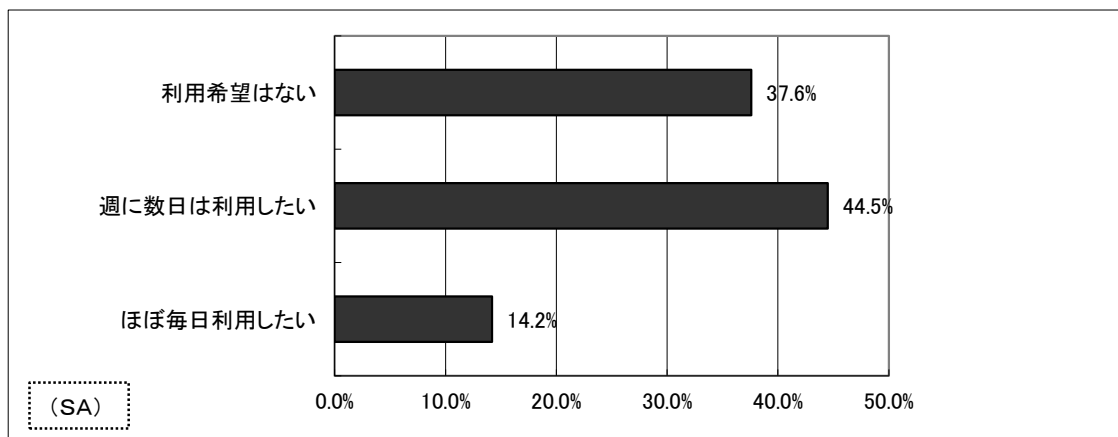
○平日に済ませられない用事（38.9%）や息抜きのため（29.8%）の利用希望もある。



(3) 幼稚園利用者の長期休暇中（夏休みや冬休みなど）の利用希望

【長期休暇中，週に数日利用したい人は4割強】

○週に数日利用したい人とほぼ毎日利用したい人をあわせると，6割弱の利用希望がある。



4. 地域子育て支援拠点事業（子育てサロン）

○子育てサロンの利用希望は、1週あたり2日程度・1月あたり3～6回である。

- ・現在は利用していないが、今後利用したい人の利用希望

1週あたりの平均利用日数	1月あたりの平均利用日数
平均 1.5日	平均 3.2日

- ・既に利用しているが、今後利用日数を増やしたい人の利用希望

1週あたりの平均利用日数	1月あたりの平均利用日数
平均 1.9日	平均 6.3日

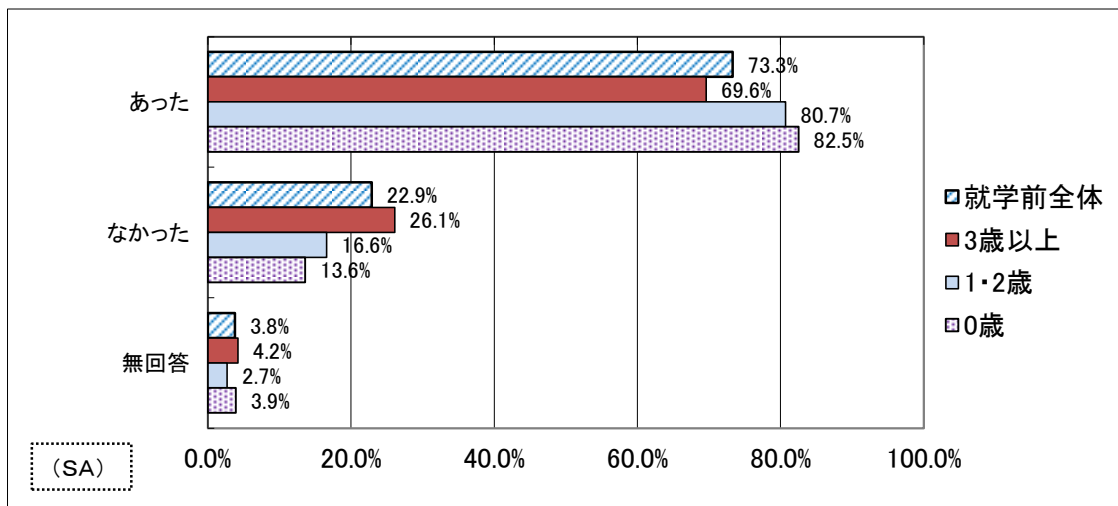
5. 病児・病後児保育

(1) 1年間に病気やケガで通常の教育・保育事業が利用できなかったことがあるか

【全体では7割弱が預けられなかったことがあった】

○年齢別では、年齢が小さいほど預けられないことがあった割合が高い。

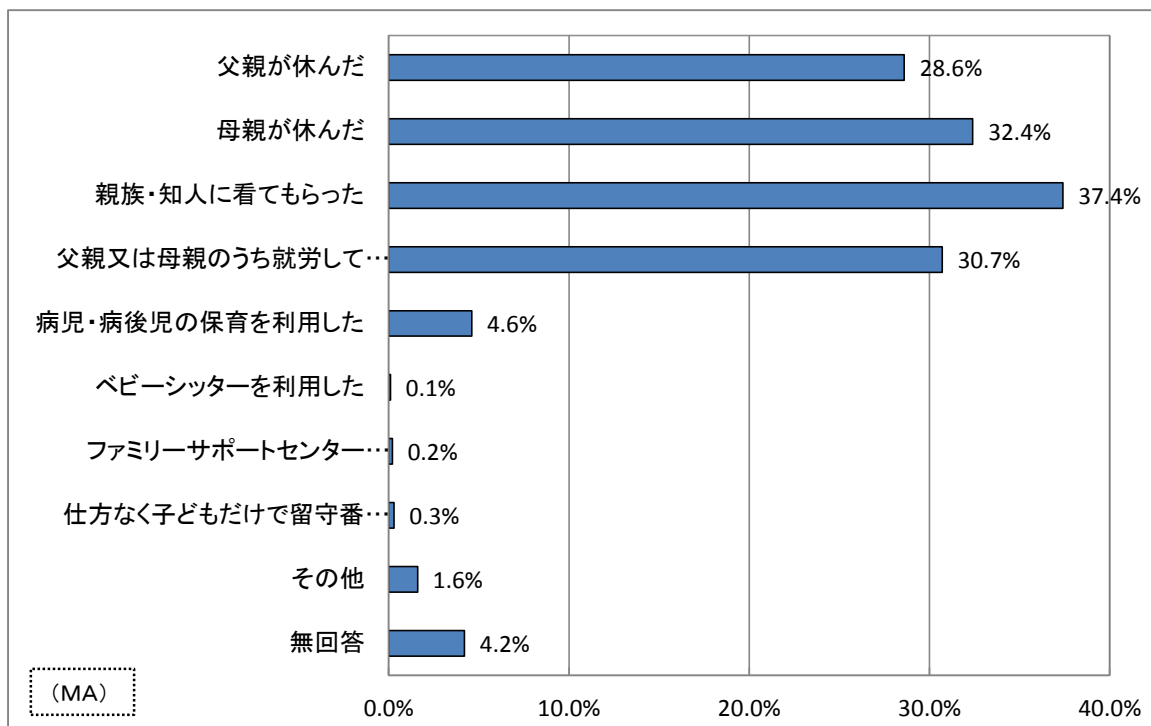
○0歳の子どもがいる世帯では預けられないことがあった割合は8割強。



(2) 利用できなかった場合の対処方法

【父親や母親が対処した割合と親族等に看てもらった割合が多い】

○子どもが病気の際の対応では、父親が休んだ・母親が休んだがともに約3割、親族・知人に診てもらったが4割弱となっている。



	年間利用日数 (平均)
父親が休んだ	3.4日
母親が休んだ	7.5日
親族・知人に看てもらった	6.5日
父親又は母親のうち就労していない方が子どもを見た	3.4日
病児・病後児の保育を利用した	7.5日
ベビーシッターを利用した	3.8日
ファミリーサポートセンターを利用した	2.0日
仕方なく子どもだけで留守番をさせた	0.7日
その他	5.6日

(3) 病気やケガで通常の保育サービスが利用できない時に父親・母親が仕事を休んで対応した人で、できれば施設に預けたい人

○病気やケガで教育・保育事業を利用できなかったとき、施設に預けたい人の割合は、2割弱。また、1年間に施設に預けたい日数の平均は、8.3日となっている。

(母親が休んだ日数の平均は、7.5日)

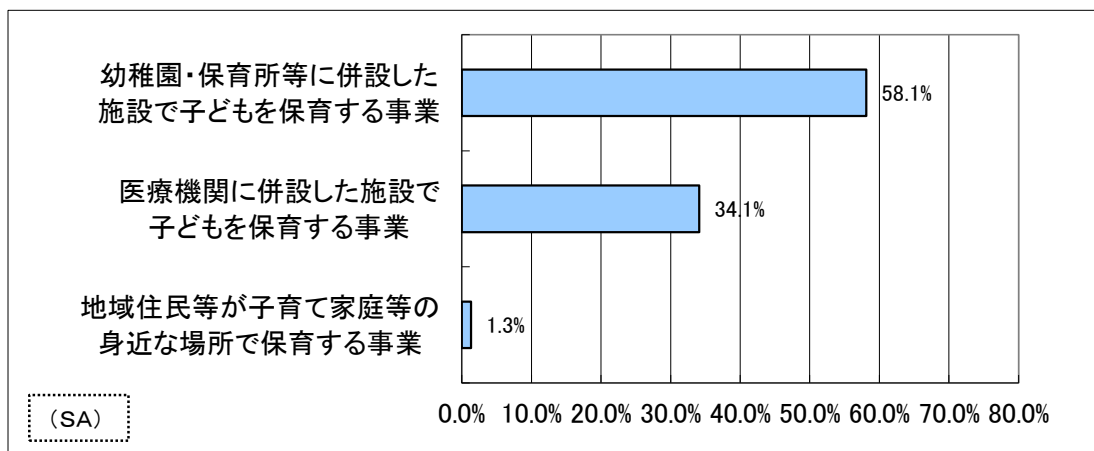
施設に預けたい人
16.3%

施設に預けたい日数 (年間)
8.3日

<関連設問> 利用を希望する病児・病後児保育施設の事業形態

【約6割が幼稚園や保育所等に併設した施設での利用希望】

○医療機関に併設した施設の利用希望は約3割となっている。

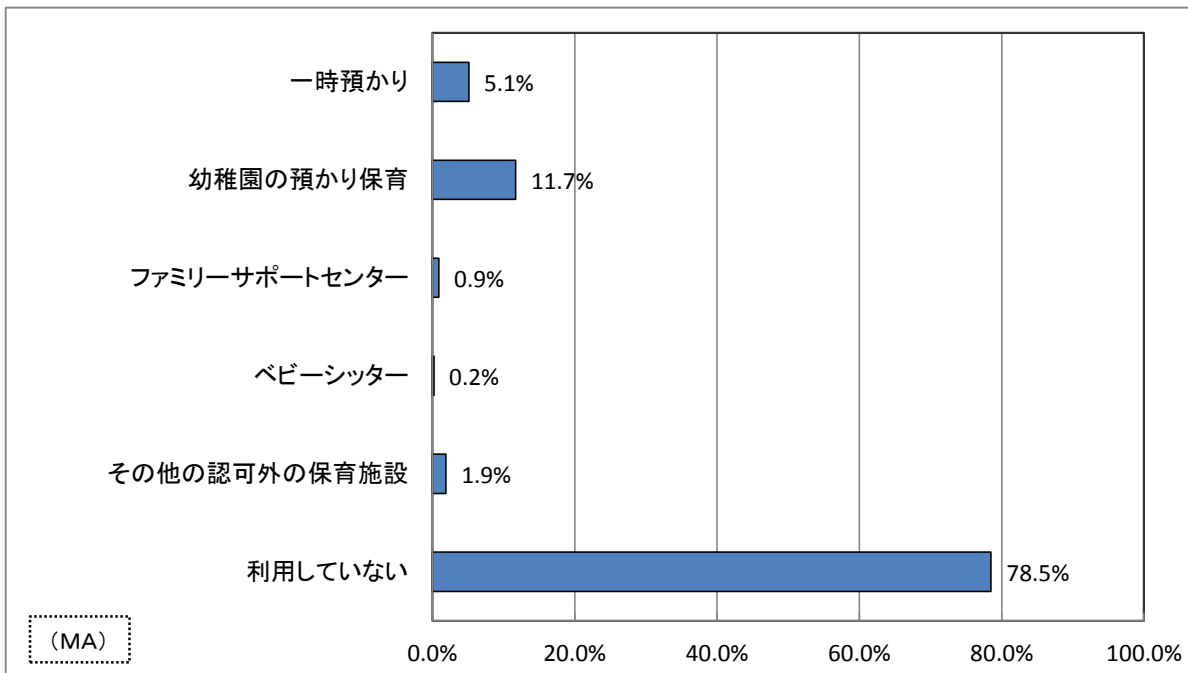


6. 不定期の教育・保育事業の利用（一時預かり等）

(1) 私用やリフレッシュ目的、冠婚葬祭や病気、あるいは就労のため、一時預かり等を利用している人

【利用していない人の割合は8割弱となっている】

○私用やリフレッシュ目的等で一時預かりを利用している人で、一時預かり・幼稚園の預かり保育・ファミリーサポートセンターの年間利用日数は10日前後となっている。

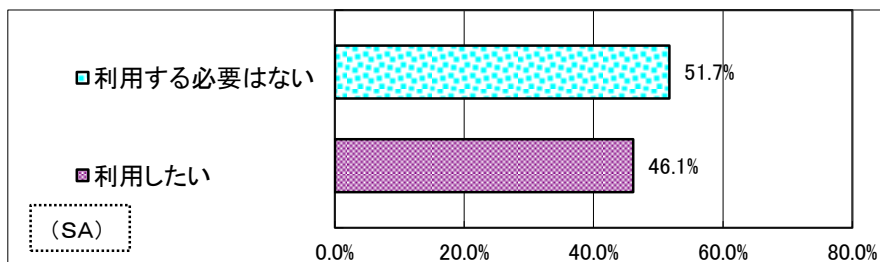


	年間利用日数（年間）
一時預かり	14.9日
幼稚園の預かり保育	13.0日
ファミリーサポートセンター	8.5日
ベビーシッター	24.5日
その他の認可外保育施設など	13.9日

(2) 私用やリフレッシュ目的、冠婚葬祭や病気、あるいは就労のため、一時預かり等を利用したい人

【利用したい人の割合は5割弱となっている】

○私用やリフレッシュ目的等での一時預かりの利用希望のうち、利用希望日数では不定期の就労による日数が最も多い。

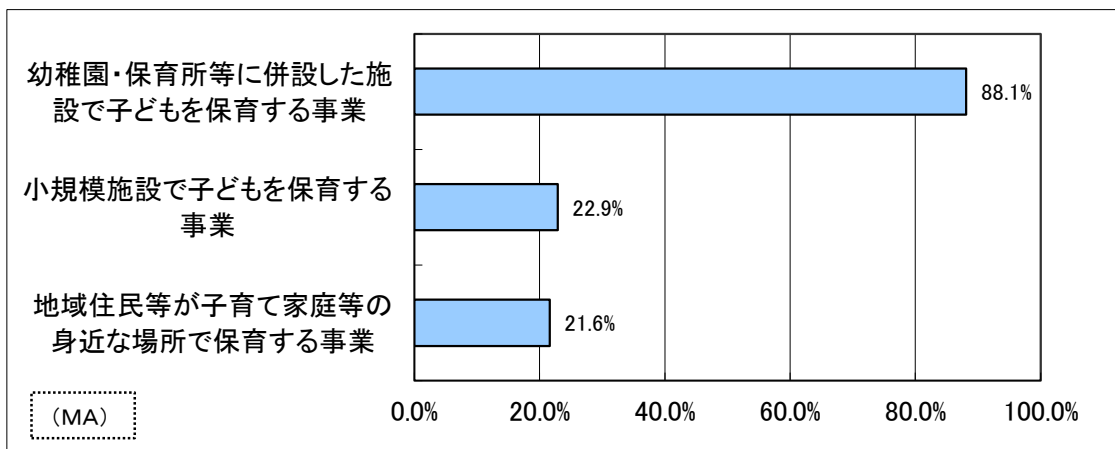


	年間利用日数（年間）
利用したい理由（ア～エ）の合計の平均値	20.4日
ア. 私用、リフレッシュ目的	11.9日
イ. 冠婚葬祭、学校行事等	7.7日
ウ. 不定期の就労	19.8日
エ. その他	14.5日

<関連設問>利用を希望する一時預かり等の事業形態

【約8割が幼稚園や保育所等に併設した施設での預かりを利用希望】

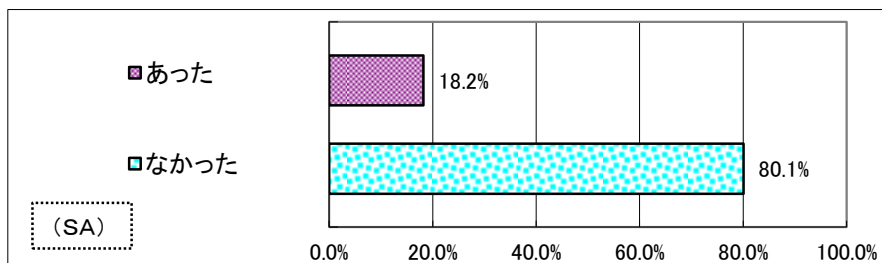
○小規模な施設での預かりや、地域住民等による預かりの希望は2割強となっている。



7. 宿泊を伴う一時預かり

(1) この1年間に、保護者の用事などにより、子どもを泊りがけで家族以外に預けなければならないことがあった人

【子どもを泊りがけで預けなければならないことがあった人の割合は2割弱である。】



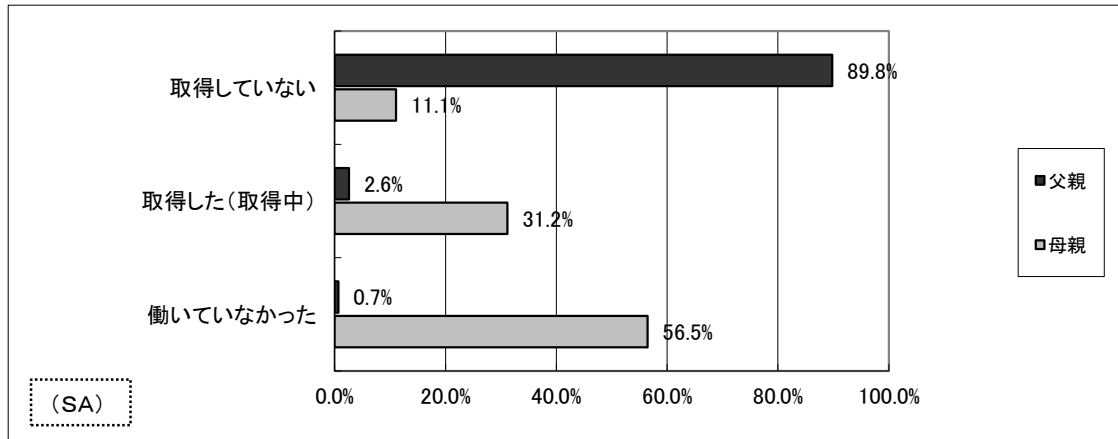
8. 育児休業の取得

(1) 子どもが生まれた時、育児休業を取得したか

【育児休業を取得した母親は約30%、父親は約3%】

○母親では、働いていなかった割合が最も高く6割弱となっている。

○父親では、取得しなかった割合が約9割。取得した人は少ない。



(2) 育児休業取得後、職場に復帰した時期

【母親は子どもが1歳の時に復帰、希望は1歳半】

○父親の希望は、約1歳となっている。

・母親

実際の取得期間 (平均)	希望の取得期間 (平均)
1歳0.5ヶ月	1歳5.7ヶ月

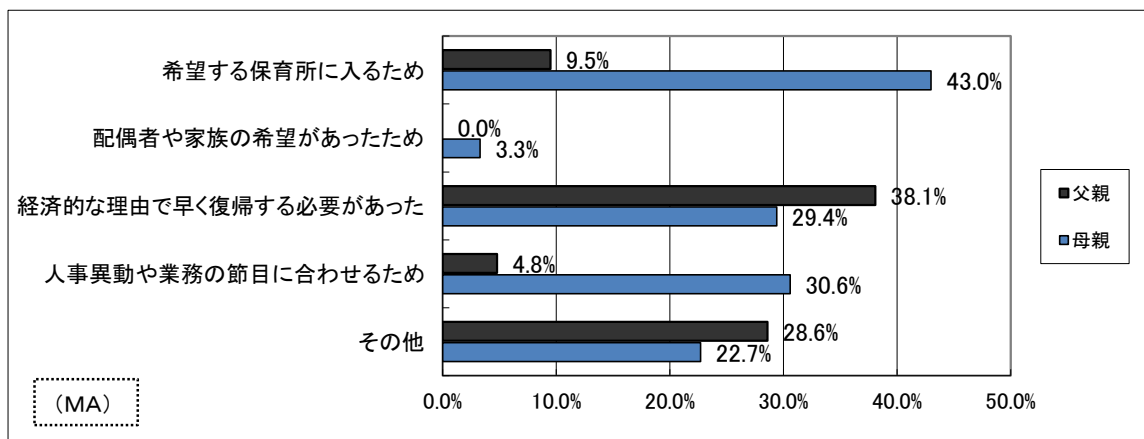
・父親

実際の取得期間 (平均)	希望の取得期間 (平均)
0歳6.2ヶ月	1歳0.2ヶ月

(3) 実際の取得期間と希望が異なる理由

【母親の4割強は、希望の保育所に入るために、希望どおりの育休期間を取得していない。】

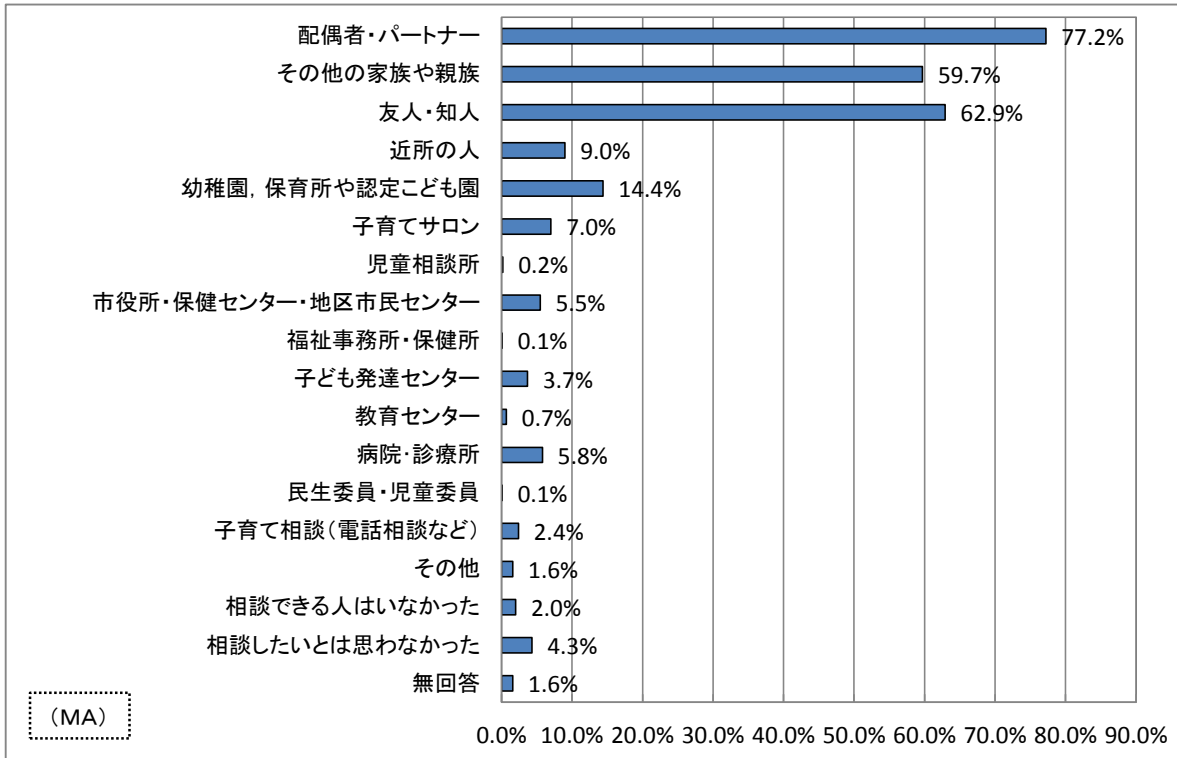
○父親では、経済的な理由で復帰した割合が4割弱となっている。



9. 子育てに関する悩みの相談相手

【子育てについて気軽に相談できる相談相手は、配偶者が最も多く8割弱】

- 配偶者以外の相談相手では、友人・知人やその他の家族や親族の割合が約6割である。
- 幼稚園や保育所等を相談相手としている人は、1割強である。

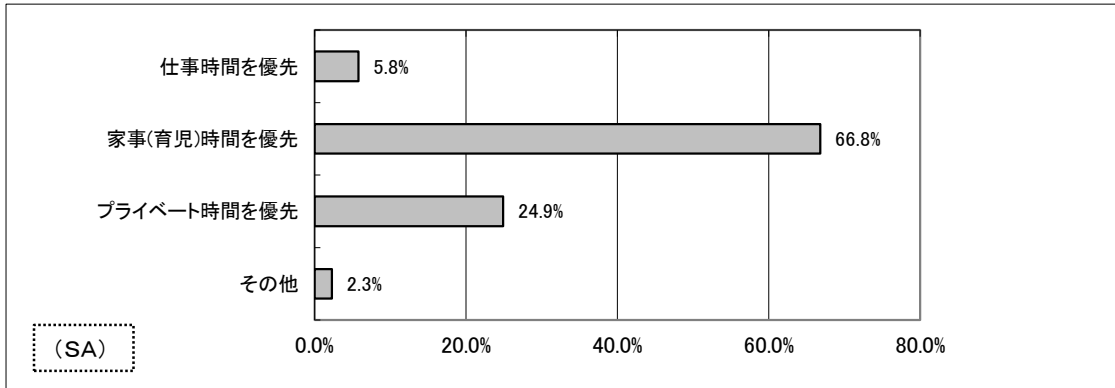


10. 「仕事時間」と「生活時間」の優先度

【希望では、家事時間優先が7割弱、次にプライベート時間優先が2割強】

○現実では家事時間優先が6割強、次に仕事時間優先が3割強

(1) 希望



(2) 現実

